

2024年度 園評価書

園番号 37 園名 有度西こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
「優しくてたくましい子」	「くり返しやってみようとする子」	園児は、好きな遊びを見つけ、試したり、工夫したりしながら、くり返し遊んでいる	様々な素材や教材、玩具また道具などを用意し、保育教諭が年齢に合わせた素材や道具の使い方を知らせることで、更に興味をもつ遊び始める姿が見られる。遊びの続きを楽しんだり出来るようになるまでやってみようと思ったり根気よく取り組んだりする姿も見られるが、工夫するという点ではまだ難しい。保育教諭と一緒に遊びヒントを伝えていくことで、遊びの幅を広げていきたいと思う	B	B	・経験がない園児に遊びのヒントを与えていくのはとても大切なことだと思ふ。自分たちで身近な廃材を利用して遊ぶなど様々な素材や教材の工夫が見られて良いと思ふ	・子どもが「やってみよう」「やってみよう」としている姿をしっかりと捉え、自分からやろうとしている姿を認めていく。子どもが「試したらいいかな？」と考えている時が子どもの学びのチャンスだと捉え、保育教諭と一緒に遊びながらヒントを与えていく
		園児は、自分の思いを伝えたり、相手の話を聞きながら遊ぶ経験を重ねている	幼児組は遊びや生活の振り返りの中で、自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりする機会を作っている。上手く言葉で表現できない場面もあるが、保育教諭の受け止め仲立ちをすることで友達とやり取りする経験を重ねている。乳児組も仕草や表情、指差し、時には言葉で自分の思いを伝えようとする様子が活発に見られるようになってきた。まずは一人一人の思いを十分に理解していくことを大切にしたい	A	B	・思いを伝えるという点では小学校でも皆の前で発表する機会を多く取り入れ、保育教諭や友達と関わりながら体を動かして遊ぶ楽しさを感じている。また、縄跳びや竹馬、一本下駄などを取り入れることで体のバランスをとって遊ぶ楽しさも経験し、上手く出来た時の達成感も味わっている	・自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりする機会を設け、その中で一人一人の発想や行動を傾聴、共感しながら肯定的に受け止めて、安心して自分の思いが出せる雰囲気を作っていく
		園児は、体を動かす楽しさを感じながら、思い切り体を動かして遊んでいる	それぞれの年齢で、秋以降子どもたちの動きが活発になり戸外で体を動かすことが増えた。鬼ごっこやしっぽ取り、サーキットなどの簡単なルールのある遊びも取り入れ、保育教諭や友達と関わりながら体を動かして遊ぶ楽しさを感じている。また、縄跳びや竹馬、一本下駄などを取り入れることで体のバランスをとって遊ぶ楽しさも経験し、上手く出来た時の達成感も味わっている	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	園は、発達に見合った遊びを楽しめるような場や機会を作ることができるよう工夫している	引き続き前月の反省と今月の指導計画を会議で報告し合い、それぞれの年齢の発達と照らし合わせ職員間で協議している。必要に応じて情報や遊びや活動を計画し、遊びや活動を計画して一学年だけでは味われないことが難しい遊びの提供も心掛けた。年長児は運動会後、就学に向けて、午睡がなくなって、午睡の時間を有意義に活用できるよう協同遊びや園庭を広く使ってドッチボールを楽しんでいる	A	A	・減災教育を受け、避難訓練など今までのやり方を更に見直し新しいやり方をさらに取り入れていくところが良いと思ふ。特に静岡県は災害に対して意識して備えていきたい地域であるので、これからも防災について考えていって欲しい	・それぞれ年齢の発達を押さえ、教育課程から月案、週案の指導計画が作成されているか書面でも確認していく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	園は、一人一人の心身の健康状態を把握し、個々の成長や保育時間等を考慮し、安心して過ごせるように配慮している	園児の健康状態の情報を保護者と園が共有できるように一日を通して『園児健康チェック表』に記載している。必要に応じて情報や職員同士で共有し早番、遅番の時間でも安心して過ごせるよう配慮している。	A	A		・「園児の健康チェック表」を活用し、職員同士が一人一人の子どもの様子で共有出来るようにしていく。遅番や早番の時間でも保護者への伝達をしっかりと行い安心して過ごせるようにしていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	保育教諭は、子どもが、地域の自然や身近な素材に触れ、遊びに活用できるような環境を作っている	秋以降は散歩に行く機会が増え、園周辺の公園等で落ち葉やドングリなどの自然物を集めてままごと遊びやどんぐり転がし、落ち葉プールなどの遊びに活用したり、クリスマス飾りの製作に使ったりしながら身近な自然に触れてきた。また、菅柱の観察や水作りなど寒い時期ならではの自然現象を楽しむ環境も用意し子どもの経験を広げている	A	A	・園で食育の日に学んだことを家で話してくれている。家庭で伝えてもなかなか浸透しないが、園で様々な教材等を使って教えてくれているので理解に繋がって有難いと思っている。一度話を聞いてもすぐ忘れてしまうこともあるので、同じ話でも定期的に繰り返してもらえるとより深く子どもたちの意識の中に浸透するのではないかと思ふ	・地域の公園の状況を保育教諭が把握し、季節ごとのような遊びや環境に活用できるのか幼児会議や乳児会議で話し合っていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	園は、状況に合わせた対応ができるよう、様々な状況や時間帯の訓練の機会を作り、安全意識を高めるよう努めている	引き続き、月に一度避難訓練と定期的な不審者訓練を行っている。減災教育についての研修を受けたり職員会議でその内容を共有したりした。今までの避難訓練や防災教育について皆で改めて考え、想定の変更をするなどして状況に合わせた対応が出来るようにしている。	A	A	・職員が協力し合い教育・保育を進めていけるのは、職員間で話し合えるのは不可欠だと思ふ。様々な時間で勤務している職員がいる中で話し合う時間の捻出には人員を増やして、現在のスピードに合わせた改善をしていけると良いのではないかと感じる	・減災教育を受け、今までの避難の仕方や年齢に合わせた身の守り方などを見直し、年間計画に取り入れていく。子ども自身も自分の身は自分で守るという安全に対する意識が高められるよう対応していく
3 保健管理・指導	(1)健康確保の充実	園は、栽培やクッキング等の食育の取り組みなどを通して食や健康への関心ももてるようしている	月一度の食育の日に季節の食材について取り上げ絵本やパネル等を媒体に話をしたり、タイス形式にして知らせたりが食材が関心ももてるようになっている。また、行事食にも触れ、その由来、意味を伝え日本古来の食文化も伝えていく。年長児が中心に『げんきっす』で給食を食べた食材を分類することで、食と健康への繋がりに関心ももっている	A	A	・職員が協力し合い教育・保育を進めていけるのは、職員間で話し合えるのは不可欠だと思ふ。様々な時間で勤務している職員がいる中で話し合う時間の捻出には人員を増やして、現在のスピードに合わせた改善をしていけると良いのではないかと感じる	・栽培に対する保育教諭の知識などのスキルをあげていき、子どもたちと一緒に最後まで責任をもって世話が出来るようにしていきたい。毎月の食育の取り組みは引き続き行い食に対する子どもたちの関心を高めていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	園は、個別の支援計画に基づき、全職員が共通理解をもちながら支援をしたり、外部の研修に参加したことを園内で活かせるようにしている	個別の支援計画に基づいて支援を行ったり、いちごの会などの少人数での活動の機会も作っている。子どもの様子については職員会議で毎月、担当職員から報告し、職員の間で共通理解に繋がっている。しかし、外部研修に参加しての報告が紙面での回覧になっていることが多い為、担当以外の職員に伝わりにくいこともある。研修に参加して学んだことを職員で共有する場を設けられるよう工夫していく。	B	B	・研修テーマの気づきについては、表面上だけの気づきの捉えにならないよう子どもたちの気づきについて話し合うことは大切だと思ふ	・職員間の共通理解に繋げるために、「いちごの会」に担当以外の職員も参加したり、研修で学んだことを会議などで伝えたり、実践してみたりするなど共有する場を作っていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	保育教諭は、自身の分掌に責任をもつて取り組むと共に、全職員が協力し、連携をとりながら教育・保育を進めている	分掌の取り組みは引き続き責任をもって取り組んでいるが、分掌によっては、リーダーが殆ど行ったり、分掌だけで行ったりすることが多くなってしまった。担当以外の職員と連携していくことの難しさを感じるので、必要に応じて分掌での話し合いの機会をもち、共通理解を図っていくと良いのではないかと感じる	B	B	・研修テーマの気づきについては、表面上だけの気づきの捉えにならないよう子どもたちの気づきについて話し合うことは大切だと思ふ	・分掌会議の定期的な設け（現在は中間と後半に進捗状況の確認と反省、分掌によっては行っているが）これからの取り組みについて話し合い、内容を職員会議で報告することで共通理解を図っていく
6 研修	(1)研修体制の充実	保育教諭は、研修テーマに沿った手立てについて意識し、子どもたちの気づきの姿を共有しながら教育・保育を進めている	5回の公開保育の中で研修テーマである『気づきを遊びに繋げる環境作り』から子どもたちの気づきに焦点をあてて話し合えることを意識した。気づきを皆で伝え合うことでその後の環境作りにつながる事ができたと、気づきの捉え方が保育教諭によって違いがあり、共有することの難しさを感じた。『子どもの気づき』について皆で考え共通認識していきたいと思ふ。	B	B	・参加会で個人面談の機会を作ってもらっているが、子どもが聞いていると話せないこともあるので、子どもがいる保育室ではなく別の部屋でやってもらえると有難い。遅番、早番を利用しては、担任に会えないことも多いので、送迎時に少しでも昼間の様子など話してもらえると嬉しい。小学校に行った時の様子など園内に貼りだして頂いたのは良かった。アプリだけでなく伝わりにくいことも口頭でも意識して頂いているので嬉しいと思ふ	・『子どもの気づき』の捉え方が職員によって違いが見られたので、研修テーマに応じて子どもたちの思いを表面的でなく考察できるよう公開保育等を通じて意識していきたい
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	園は、子どもの興味や関心に合わせて教材は、子どもが試行錯誤できるような環境を整えている	季節や子どもの遊びの変化に合わせて環境を整えているが、子どもが扱いにくかったり扱い方が分からなくなったりするため、子どもに発達に合わせた環境（素材、玩具、用具等）なかをもっと一度吟味していく必要がある。乳児、幼児に分かれて会議の中で環境について話し合っていたが、それに加えて毎週金曜日に園庭の環境について環境図を基に共有する機会を設け、園全体で環境を考えるきっかけとしている	B	B	・参加会で個人面談の機会を作ってもらっているが、子どもが聞いていると話せないこともあるので、子どもがいる保育室ではなく別の部屋でやってもらえると有難い。遅番、早番を利用しては、担任に会えないことも多いので、送迎時に少しでも昼間の様子など話してもらえると嬉しい。小学校に行った時の様子など園内に貼りだして頂いたのは良かった。アプリだけでなく伝わりにくいことも口頭でも意識して頂いているので嬉しいと思ふ	・「環境図」を基に毎週金曜日の後に次週の環境について乳児、幼児に分かれて話し合いを始めたので、様々な勤務形態の職員にも参加してもらい、引き続き行い、発達のおさえや職員同士で共有出来る機会となるよう定着させていきたい
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園は、日々の遊びや生活の様子を、様々な方法で情報発信し、子どもの育ちを保護者と共有できるような努めをしている	幼児クラスの掲示版もアプリでの配信に変わり、いつでもどこでも内容を確認できる便利さがあるのではないかと思ふ。職員はままでのやり方と違いを感じるところもあるが（文字数や写真掲載の制限等）できるだけ子どもの様子が伝わるような文章や写真の掲載を心掛けていく。年明けに乳児クラス、2月に幼児クラスが参加会を行い保護者と子どもたちの成長を共有できる機会を設けている。	A	A	・参加会で個人面談の機会を作ってもらっているが、子どもが聞いていると話せないこともあるので、子どもがいる保育室ではなく別の部屋でやってもらえると有難い。遅番、早番を利用しては、担任に会えないことも多いので、送迎時に少しでも昼間の様子など話してもらえると嬉しい。小学校に行った時の様子など園内に貼りだして頂いたのは良かった。アプリだけでなく伝わりにくいことも口頭でも意識して頂いているので嬉しいと思ふ	・アプリの配信では子どもの様子が伝わりやすいような文章や写真の掲載を心掛ける。掲示版の活用にも必要に応じて行い、保護者とのコミュニケーションを図るため、口頭での伝え合いも意識し取り入れていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	園は、近隣の園や小学校との交流の機会を持つようになり、保護者にも連携の様子を情報発信している	職員が近隣の公開保育や小学校の公開授業に参加することに加えて、12月に小学校の教員が年長児の公開保育に参画し、園の様子をみて頂くことが出来た。1月には小学校の一年生より招待があり年長児が小学校の体験授業に参加した。一年生への質問を用意したり、校庭で遊んだり児童と園児との交流も実現した。質問内容を掲示し保護者に情報発信した	A	A	・参加会で個人面談の機会を作ってもらっているが、子どもが聞いていると話せないこともあるので、子どもがいる保育室ではなく別の部屋でやってもらえると有難い。遅番、早番を利用しては、担任に会えないことも多いので、送迎時に少しでも昼間の様子など話してもらえると嬉しい。小学校に行った時の様子など園内に貼りだして頂いたのは良かった。アプリだけでなく伝わりにくいことも口頭でも意識して頂いているので嬉しいと思ふ	・近隣の公開保育や小学校の公開授業に参加し、情報交換をしながら職員同士の交流を図る。小学校へ散歩で出掛けたり、近隣の園とも中間の公園等で交流するなどの機会を作っていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	園は、地域の施設等との交流の機会を設け子どもが親しみを感じながら豊かな生活体験ができるようにしている	S型デイサービスとトークの会への参加は引き続き行っている。また、11月には勤労感謝祭で地域でお世話になっている様々な場所を訪問し知る機会となった。『読み聞かせの会』も引き続き行われて子どもたちが地域の方に話しかけたり、挨拶をしたり親しみをもって交流が出来ている。年明けには地域の方にこま回しなどの伝承遊びを教えて頂く体験も行われた	A	A	・参加会で個人面談の機会を作ってもらっているが、子どもが聞いていると話せないこともあるので、子どもがいる保育室ではなく別の部屋でやってもらえると有難い。遅番、早番を利用しては、担任に会えないことも多いので、送迎時に少しでも昼間の様子など話してもらえると嬉しい。小学校に行った時の様子など園内に貼りだして頂いたのは良かった。アプリだけでなく伝わりにくいことも口頭でも意識して頂いているので嬉しいと思ふ	・月に1度の読み聞かせの会やトークの会、S型デイサービス、ニチイさんとの交流などができる範囲で計画、実施をし、子どもたちが地域に親しみもてるようにしていく